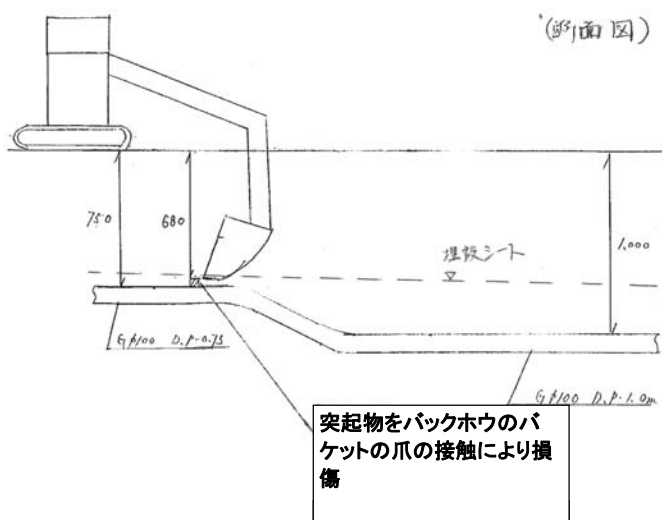
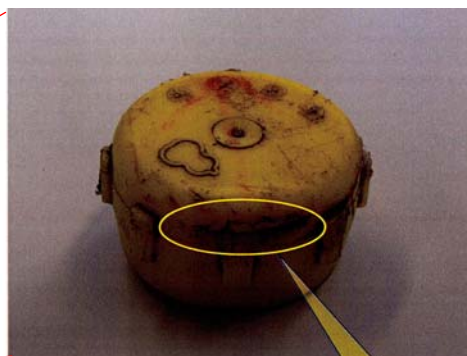


発生日時	平成 23 年 6 月 29 日 (水) 22 時 40 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 As舗装工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	ガス管損傷	
事故概要	電線管路の敷設作業中、バックホウにてガス管を損傷させたもの。				
公衆損害事故-地下埋設物件損傷					

事故発生状況



- ・電線共同溝の管路部(歩道部)の布設作業
- ・ガス会社に立会いを依頼し、ガス管を確認した後、機械掘削を行っていた。
- ・作業中、ガスの臭いがしたため、ガス会社に復旧依頼。
- ・突起物と本管との接合部に亀裂が入っていることが分かった。
←ガス管の突起物をバックホウの爪の接触により損傷させた



損傷状況

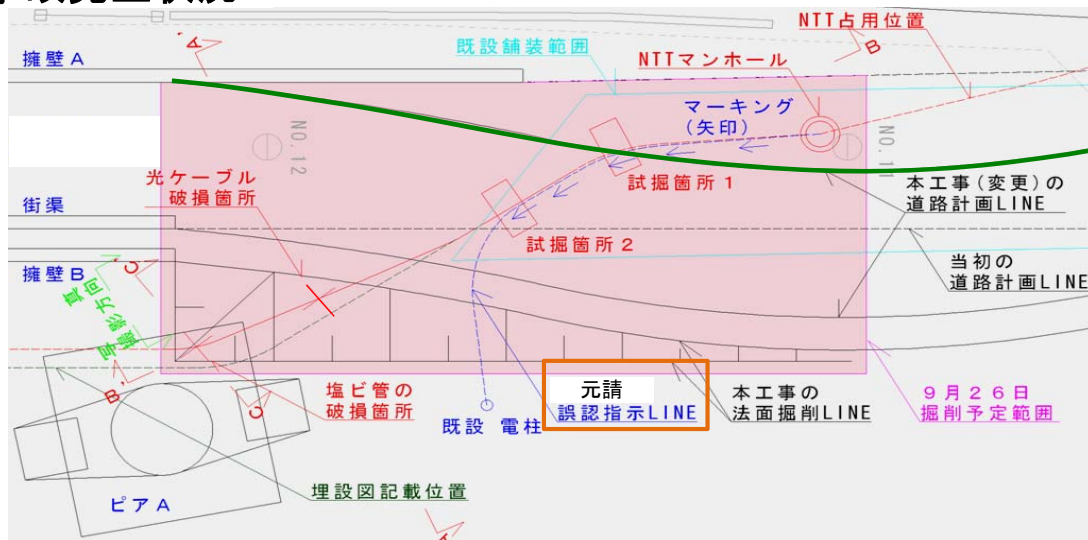
バケットの爪により損傷

【事故発生原因】
 ・埋設物近接箇所での掘削について安全対策が不十分であったため。
 など

【事故防止のポイント】
 ・作業手順について作業員に周知・徹底する。
 ・地下埋設物近接箇所では、不用意に重機を用いて作業をしない。
 など

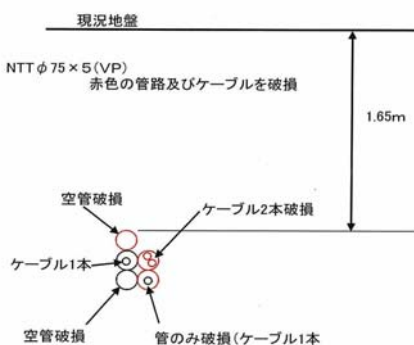
発生日時	平成 23 年 9 月 26 日 (月) 9 時 40 分			天候	曇
工事情報	道路系事務所 As舗装工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	NTT管・ケーブル損傷	
事故概要	掘削中、バックホウにてNTT管とケーブルを損傷させたもの。				
公衆損害事故-地下埋設物件損傷					

事故発生状況



- ・事前にNTTと立会いを行っていた。
- ・その後計画に変更があり、掘削範囲が拡大。
- ・当初計画の掘削範囲のままで埋設管位置を指示→損傷

断面図



【事故発生原因】

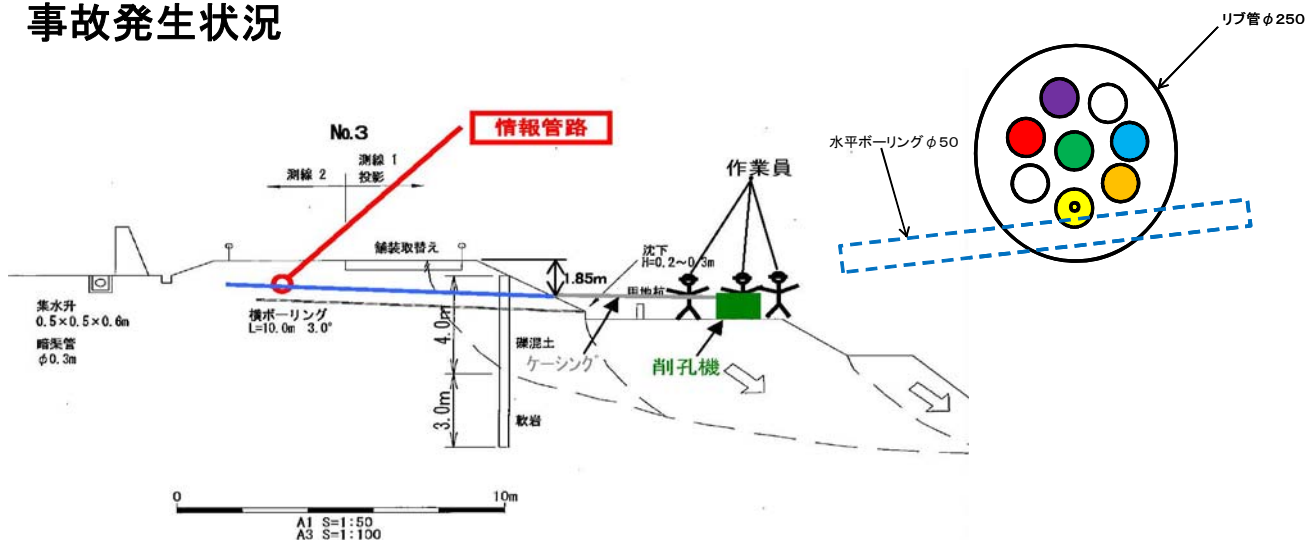
- ・掘削範囲を変更した際に、埋設物に関する情報を再度確認しなかったため。
- ・埋設物に関する情報が現場内で共有されていなかったため。 など

【事故防止のポイント】

- ・作業内容に変更が生じた場合は、作業箇所について再度確認すること。
- ・埋設物に関する情報を作業員に対して周知・徹底する。 など

発生日時	平成 23 年 9 月 18 日 (日) 18 時 0 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	道路情報管路損傷	
事故概要	ボーリング掘削中に道路情報管路を損傷させたもの。				
公衆損害事故-地下埋設物件損傷					

事故発生状況



- ・地下水排除を目的とした水平ボーリング(L=10m)を実施中、情報管路(リブ管・塩ビ管)を損傷させたもの。
- ・φ250のリブ管に入っていた塩化ビニールパイプφ50の8条の内、1条を損傷。(事務所の保護管、光ケーブルに損傷はなかった)
- ・事前に埋設物有無の確認をしていなかったため、作業員が埋設物を把握していなかった。



現場状況



管路損傷状況

【事故発生原因】

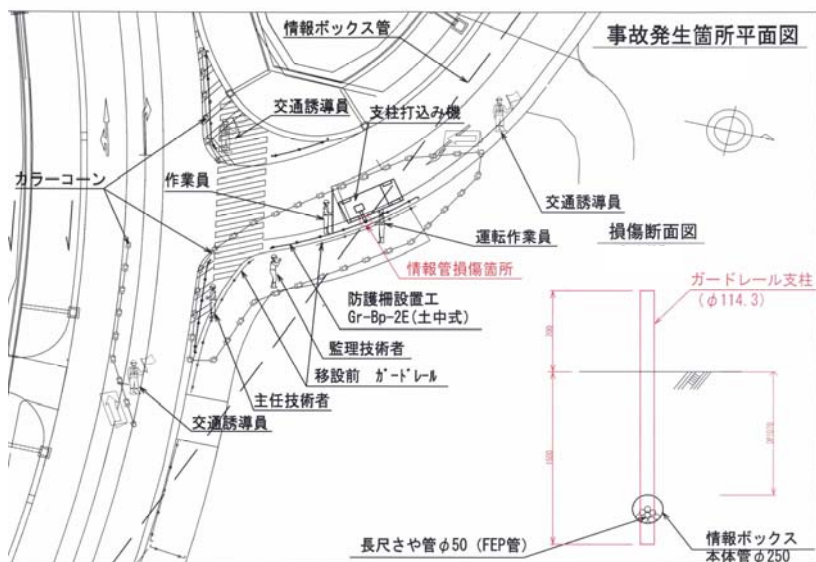
- ・地下埋設物について事前確認不足であるため。 など

【事故防止のポイント】

- ・事前に台帳、管理者の立会い、試掘等により施工箇所地下埋設物を確認する。 など

発生日時	平成 23 年 10 月 11 日 (火) 11 時 24 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	情報ボックス内光ケーブル損傷	
事故概要	ガードレールを打ち込み中、事務所情報ボックス内の光ケーブルを損傷させたもの。				
公衆損害事故-地下埋設物件損傷					

事故発生状況



占有企業の埋設物は図面、現地立会い依頼にて確認済み。

今回損傷した道路事務所管理の情報ボックスは、管理図からオフセットチェックを行い、想定位置を確認したが、試掘が必要なほど情報ボックスが近接しているという認識がなかった。

→位置の確認がされておらず損傷につながった。

ガードレール支柱打ち込み異常時



ガードレール支柱打ち込み完了(情報ボックス損傷)



損傷状況

【事故発生原因】

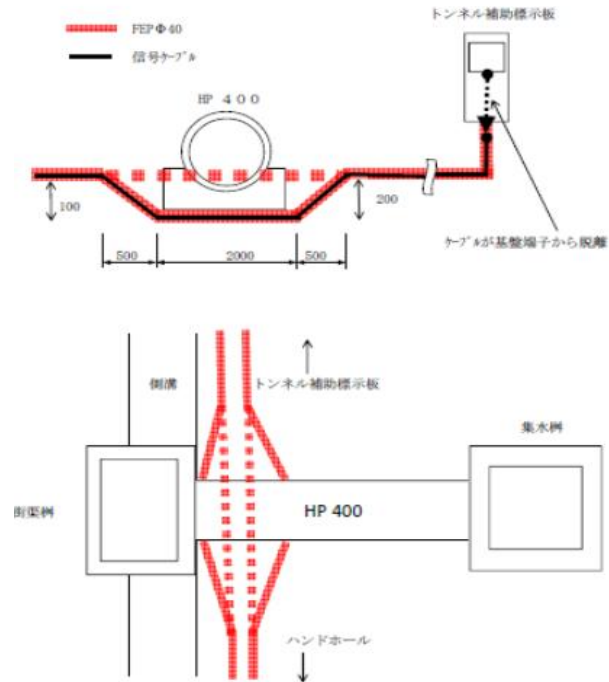
- ・埋設物の位置を想定のみで決定し、試掘等で確認していなかったため。
- など

【事故防止のポイント】

- ・埋設物の存在がわかっている場合は必ず試掘を行い、位置を確認すること。
- など

発生日時	平成 23 年 11 月 8 日 (火) 11 時 20 分			天候	曇
工事情報	道路系事務所 As舗装工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	トンネル補助情報板のケーブルが外れる(交換)	
事故概要	排水用のヒューム管を歩道内に施工していた際に、トンネル補助警報表示板のケーブルを引っ張り、基盤接続部から脱落させたもの。				
公衆損害事故-地下埋設物件損傷					

事故発生状況



- ・歩道内の横断管渠 (HP-400) を布設する作業を行っていた。
- ・ヒューム管を設置する際に、既設の信号ケーブル管が施工の支障になるため、人力にて押し下げ、碎石をケーブルに被せてプレートにて転圧した。
- ・その際、ケーブルを接続していたトンネル補助掲示板から基盤端子がはずれ、データに欠測が発生したもの。
- ・元請はケーブル管の存在を知っていたが、ケーブル管を考慮した作業計画は立てておらず、下請の判断で押し下げてしまったもの。

【事故発生原因】

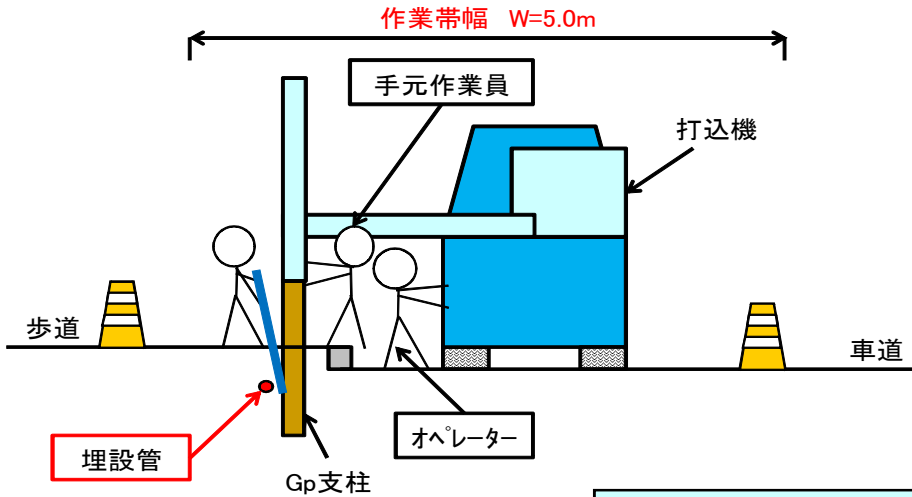
- ・配線の確認をせず、ケーブル管を押し下げてしまったため。

【事故防止のポイント】

- ・支障物を事前に確認し、作業員に周知・徹底する。
- ・地下埋設物を考慮した作業計画を立てる。 など

発生日時	平成 24 年 1 月 11 日 (水) 15 時 0 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	照明灯ケーブル損傷	
事故概要	ガードパイプの打込み作業時に、照明灯のケーブルを損傷させたもの。				
公衆損害事故-地下埋設物件損傷					

事故発生状況



損傷状況

- ・ガードパイプ設置作業。
- ・事前に試掘にて照明配管の位置を確認したところ、照明配管が新設支柱と干渉する位置にあったため、照明配管の2箇所をボールを用いて支柱を民地側に寄せていた。
- ・支柱のセットと同時にボールを取り外したため、支柱の下に照明配管が入り込んでしまったが、それに気付かず、照明配管の位置を確認しないまま支柱の打込みを開始した。その結果、支柱の下方にある照明配管を切断したものの。

【事故発生原因】

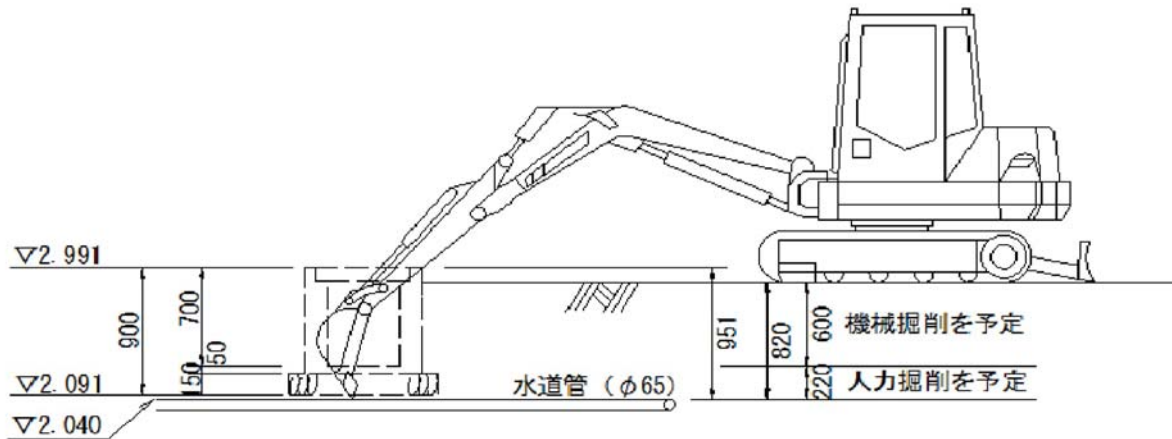
- ・地下埋設物に対する注意喚起が不足していたため。 など

【事故防止のポイント】

- ・地下埋設物近接箇所での作業については、具体的な作業手順を指示し、作業内容を周知・徹底すること。 など

発生日時	平成 24 年 2 月 22 日 (水)			9 時 55 分	天候	曇
工事情報	河川系事務所 一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	-	-	-	水道管損傷(水圧低下・10軒)		
事故概要	側溝敷設のためバックホウにて掘削中、水道管を損傷させたもの。					
	公衆損害事故-地下埋設物件損傷					

事故発生状況



現場状況

・排水路の排水柵(B500×H600)設置作業。

・事前に試掘にて管の位置を確認し、上記の図のように掘削計画を立てていた。

・バックホウにて掘削を行っていた際にバケットにて水道管を圧迫し、亀裂破損を発生させたもの。

【事故発生原因】

・地下埋設物に対する注意が不十分だったため。 など

【事故防止のポイント】

・地下埋設物近接付近での作業については、十分注意するよう作業員に周知・徹底する。 など

発生日時	平成 24 年 2 月 22 日 (水)			11 時 50 分	天候	晴
工事情報	河川系事務所 一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	-	-	-	ボックスカルバートウイング損傷		
事故概要	バックホウで法面工掘削中、ボックスカルバートウイングを損傷させたもの。					
	公衆損害事故-地下埋設物件損傷					

事故発生状況



ウイング下流側破損状況



ウイング上流側破損状況

・法面掘削作業中であり、法面最下段の仕上げ高さまでの掘削をバックホウ(0.7m3)にて実施。

・転石の除去作業を行っていたところ、既設ボックスカルバートウイングを転石と間違えバケツで除去しようとし、ウイング部分を破損させたもの

・埋設物があることは事前にわかっていたが、試掘等で確認していなかった。

【事故発生原因】

・地下埋設物に対する注意が不十分だったため。 など

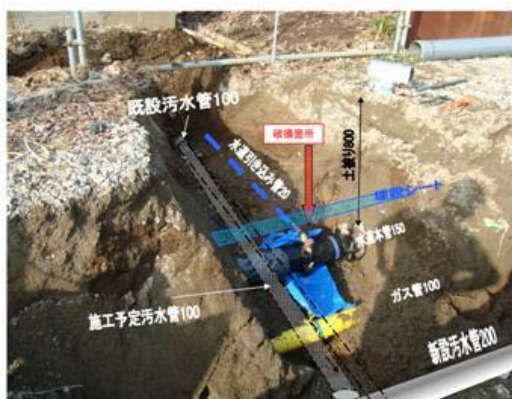
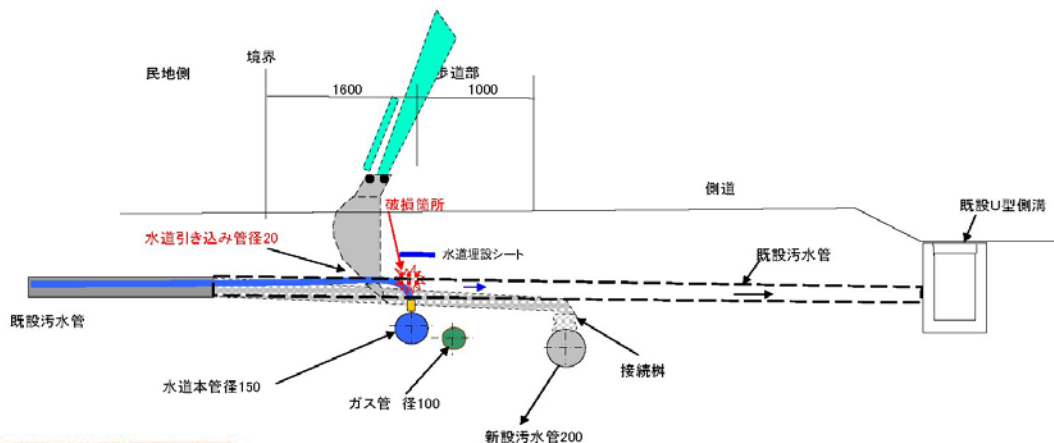
【事故防止のポイント】

・地下埋設物近接付近での作業については、埋設物の状況を十分に把握した上で施工を行う。

など

発生日時	平成 24 年 3 月 6 日 (火) 14 時 5 分			天候	晴
工事情報	道路系事務所 一般土木工事				
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度	
	-	-	-	水道管損傷	
事故概要	バックホウにて掘削中に水道管を破損させたもの。				
公衆損害事故-地下埋設物件損傷					

事故発生状況



- ・宅地排水の接続の汚水管φ100を施行するため、掘削をバックホウにて実施していた際に水道引き込み管φ20を破損させたもの。
- ・図面で埋設物があることは事前にわかっていたが、試掘等で確認していなかった。

【事故発生原因】

- ・地下埋設物に対する注意が不十分だったため。 など

【事故防止のポイント】

- ・地下埋設物近接付近での作業については、埋設物の状況を十分に把握した上で施工を行う。

など